

〔講演要旨〕 宝永地震翌朝の駿河の地震について

(株)防災情報サービス *中村 操

(財)地震予知総合研究振興会 †松浦 律子

§1. はじめに

宝永四年十月四日(1707/10/28)未刻(13:30ごろ)に宝永地震が発生し、その翌日の早朝つまり十月五日(1707/10/29)卯刻(05:40ごろ)に余震が起きた。さらに、十一月二十三日(1707/12/16)には富士山が噴火し、宝永火口を作った。

余震に関する史料を整理し、被害記事から震度分布図を作成した。また震源についても考察を行う。

§2. 各地の有感および被害史料

2.1 江戸市中の有感記事

千代田区三崎町の成満寺では「五日、明六ツ過大地震、昨日之程也、早速登城、護持院は不被罷出」(成満院日記抄)とある。また、柳沢家では「四日 今日八つ時地震強し、五日 今朝六つ時過に地震強きによりてやかて登城して、御機嫌を窺ふ」(楽只堂年録)。千代田区「四日昼八比地震 先年已後ノ強キ地震也、同五日明六過地震 四日地震ヨリ過半よわし」(河方筆記)

新井白石にいたっては「四日 地震、八前出仕、後聞、卅七国、遠・三・土佐特甚、五日「暁」地震」(新井白石日記)と記録し、二つの地震共に素っ気ない内容である。

2.2 静岡県の記事

三島市北田町、三島代官所「昨四日未之刻、豆菰大地震仕候、然共一震大地震仕早ク鎮り申候ニ付三嶋町・箱根町潰家は無御座候、相改可申上候、又々今朝卯之上刻大地震仕候、鎮申候故潰家は無御座候」(楽只堂年録)

富士宮市村山、本宮浅間大社「□分に夥敷大地震、昨夜之三双倍(中略)神社佛閣震ひ傾け、村家の居屋□れ潰る事数多也」(大地震富士山焼出之事)

静岡市葵区駿府公園、駿府城「十月四日未刻大地震、同五日申刻大地震、両度之地震ニ而御城中所々大破損」(駿国雑志)

§3. 近年の静岡県の地震との比較

余震の震源付近で、2011年3月15日静岡県東部(震央は富士山中腹部)を震源とする地震が発生した。この

地震は同3月11日の東北地方太平洋沖地震(M9.0)の後に起こった地震で、本震の規模などから、誘発された地震と考えられる。

被害は、震源に近い富士宮市では「『ドーンと突き上げるように来て、ぐらぐらと揺れた』最も揺れが大きかった静岡県富士宮市。市役所の当直職員は様子を語った。富士宮駅近くのビジネスホテルではボイラーの配管が破損して水蒸気が発生し、宿泊客を外に一時避難させた」、「三島市役所では天井の一部が落下」(朝日新聞)とある。

その他、交通網については直接の被害はなかったが、一時的に止まった。「東海道新幹線は品川ー浜松間で一時運転を見合わせた。東名高速道は大井松田ー清水インターチェンジ(IC)間で一時通行止めとなった。」(中日新聞)。この時、東京では震度 3。

§4. 震源および規模について

余震の震源は震度分布から、静岡県東部富士宮市付近にあり、深さは浅い。規模については江戸での震度4(ご機嫌伺いに登城している)を説明するために、3月15日の地震、2009年駿河湾地震などの規模を考慮し、M6.6~7.0と考える。

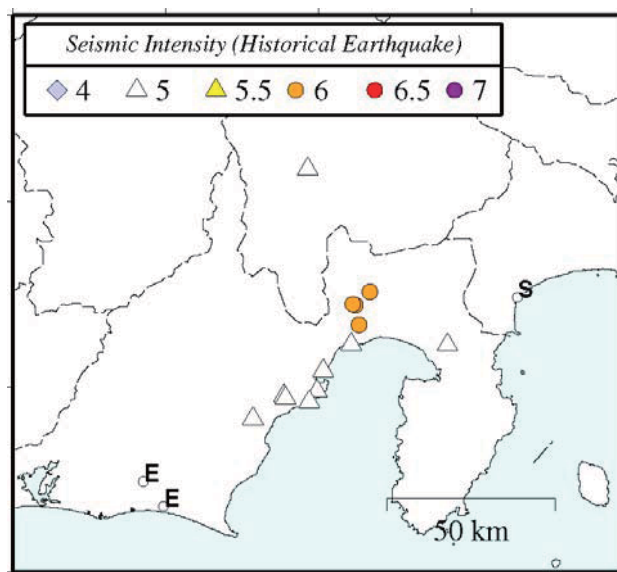


図1 十一月五日の余震の震度分布。

*〒285-0038 千葉県佐倉市弥勒町 230-7
電子メール: misao@ba2.so-net.ne.jp